

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経営戦略研究科・会計専門職専攻
大項目	3 教育方法
中項目	
小項目	3.0.1 授業を行う学生数
要素	会計大学院においては、少人数による双方向的又は多方向的な密度の高い教育が行われなければならないことが基本であることにかんがみ、一の授業科目について同時に授業を行う学生数が、この観点から適切な規模に維持されていること。
小項目	3.0.2 授業の方法
要素	会計大学院における授業は、次に掲げる事項を考慮したものであること。 (1) 専門的な会計知識を確実に修得させるとともに、事実即して具体的な問題を解決していくために必要な分析能力及び議論の能力、会計判断を関係当事者に正しく伝える能力その他の会計職業人として必要な能力を育成するために、授業科目の性質に応じた適切な方法がとられていること。 (2) 1年間の授業の計画、各科目における授業の内容及び方法、成績評価の基準と方法があらかじめ学生に周知されていること。 (3) 授業の効果を十分にあげられるよう、授業時間外における学習を充実させるための措置が講じられていること。
小項目	3.0.3 履修科目登録単位数の上限
要素	会計大学院における各年次において、学生が履修科目として登録することのできる単位数はモデルカリキュラム等を参考に各会計大学院で適切に設定すること。

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. クラスサイズについて、2005年度から2007年度の平均である17.2人前後を維持する。	→各開講科目の履修者数	C
2. 50名を超える履修者がいるクラスには、クラス分割クラス指定等の措置を検討する。	→	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

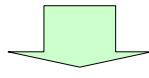
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目3.0.1	(現状説明) 1. 授業科目数と学生数 公認会計士試験の基礎固めに中心となるコア科目群(年4回)およびベーシック科目群(年2回)については、複数回の開講を昼間時間帯および夜間時間帯(土曜日を含む)に配置している。公認会計士試験への応用的対応や自治体・会計事務への専門的対応を習得するアドバンス科目群を中心に多数60科目(2007年度)の科目を配置している。 この結果、クラス別平均受講人数は、全体として 13.1人(2009年度)である。クラスサイズについて、今後も17人程度を維持していく。
☆ 小項目3.0.2	(現状説明) 1. 授業方法 授業方法は、講義、演習、ケーススタディ、グループワーク、個人指導、グループ指導など、様々な方式の組み合わせにより行っている。レジュメのスライド表示、PCによる演習、学生によるプレゼンテーション等、一部の授業で利用している。 コア科目群においては、基礎的な能力を涵養するために講義を中心とした方法により授業を行っている。これを踏まえ、ベーシック科目群においては、理論と実践の橋渡しとなるよう、講義に演習を加味した授業を行っている。アドバンス科目群においては、会計専門職として必要とされるトータルな能力を磨くため、講義、演習に加え、ケーススタディ、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークという双方向的な要素を取り入れた授業を展開している。また、会計科目に論文作成指導も設置している。 2. 学生への周知 1年間の授業の計画、各授業科目における授業の内容及び方法、成績評価の基準と方法については、Web上のシラバスで、学生の履修科目選択に際して常時確認できる他、各講義の最初に各担当教員から説明される。 Webシラバスで開示されている記載事項は、①講義目的、②各回ごとの授業内容、③授業方法、④教科書、⑤参考文献、⑥成績評価方法・基準、⑦学生による授業評価の方法、⑧準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連などとなっている。 3. 授業外学習 成績評価が定期試験に偏らないことを前提にしていることから、事前にシラバスによって定期試験外の成績評価への配点・評価基準が示して、授業中の小テスト、レポートやプレゼンテーションを課している授業が多い。学生へは、これらの準備として、授業外学習へのインセンティブを与えている。
☆ 小項目3.0.3	(現状説明) 1. モデルカリキュラム 本専攻科では、次のコースおよびプログラムを組成しており、それぞれについて標準的な履修パターンを設定してカリキュラム編成を行うとともに、学生に履修計画の参考に供している。 (1) 企業会計コース ① 公認会計士養成プログラム ② 企業経理財務担当者養成プログラム (2) 自治体会計コース ③ 地方自治体会計・行政経営専門職養成プログラム これらのプログラムは、修了要件ではなく、学生はそれぞれの目標に応じて履修計画を立てそれに従って就学している。 2. 履修単位数制限 社会人の学生や在学期間中に国家試験を受験する学生への配慮から、各学年に履修登録できる単位数は次のように定めている。 1年次 春学期 30単位、秋学期 30単位 2年次 春学期 30単位、秋学期 30単位
☆ その他	

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目3.0.1	
小項目3.0.2	
★ 小項目3.0.3	
その他	



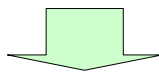
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目3.0.1	
小項目3.0.2	
★ 小項目3.0.3	
その他	

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目3.0.1	
小項目3.0.2	
★ 小項目3.0.3	
その他	



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目3.0.1	
小項目3.0.2	
★ 小項目3.0.3	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

- 現状説明は内容の充実した記述です。
- クラスサイズが少人数であることは評価できます。その一方学生間の双方向的な教育を施す上で、現状のサイズは適切かの評価はいかがでしょうか。授業方法については適切と思われます。履修単位数制限は、各学期30単位とのことですが、教育内容の進捗状況報告シートでは20単位となっております。整合性が取れているのでしょうか。
- また、目標の2. に対する指標が設定されておりません。指標の設定が求められます。
- 2008年に受診した分野別認証評価に関する要望事項(シラバスでの成績評価にかかる記載が教員によりばらつきがみられる。評価要素の比重の書き方等に関しては、統一することを要望する)への対応はいかがでしょうか。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 1. 履修単位数制限は、2009年度から各学期20単位に改定している。
- 2. 目標の2. 「50名を超える履修者がいるクラスには、クラス分割クラス指定等の措置を検討する。」に対する指標として、「各講科目の履修者数」を設定して進捗を管理する。
- 3. シラバスでの成績評価に関する記載ぶりについて、教員間での統一するように専攻会議で協議を行う。